

平成22年生駒市教育委員会第2回臨時会会議録

1 日 時 平成22年8月4日(水) 午後2時～午後3時50分

2 場 所 生駒市役所 403・404会議室

3 審査事項

(1) 平成23年度使用小学校教科用図書採択について

4 出席委員

委員長 中井公人

委員(委員長職務代理者) 村田浩子

委員 平本重次

教育長 早川英雄

5 事務局職員出席者

教育総務部長 大津輪 幹 夫

教育指導課長 井 上 廣

教育総務課課長補佐 吉 岡 秀 高

教育指導課課長補佐 伊 東 英 治

教育指導課指導主事 堀 田 勝

教育総務課庶務係長 松 田 悟

教育総務課(書記) 楠 下 崇 子

6 その他出席者

教科用図書採択選定委員会委員長 中 森 久 貢

7 傍聴者 10名

午後 2 時 開会

○中井委員長：ただ今から、平成 22 年生駒市教育委員会第 2 回臨時会を開催いたします。

~~~~~

○中井委員長：日程第 1、本日の臨時会の会期及び会議時間の決定を議題といたします。  
私から本日の定例会の会期は本日一日とし、会議時間を本日午後 2 時から午後 5 時までとすることを提案いたしますが、いかがでございますか。

《 異議なし 》

○中井委員長：ご異議なしと認め、第 2 回臨時会の会期は本日一日とし、会議時間を午後 2 時から午後 5 時までとすることに決定いたしました。

~~~~~

○中井委員長：続きまして日程 2、平成 23 年度使用小学校教科用図書の採択についてを議題といたします。

本件につきましては、生駒市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則（昭和 60 年 4 月生駒市教育委員会規則第 6 号）第 2 条第 9 号の規定に基づき審議を願うものであります。なお、4 月に教科用図書選定委員会を設置し、調査研究を重ねていただいておりますので、本日の会議には、教科用図書選定委員会の中森委員長に出席を求めています。ご了承の程お願いいたします。

さて、平成 23 年度以降に使用する小学校教科用図書ですが、教育委員会調査研究用として、過日、事務局から各委員の自宅に教科書が送付され、県の採択基準及び選定資料をもとに、それぞれが調査研究を進めてきました。また、6 月 25 日の定例教育委員会終了後に、図書会館の教科書展示会場において、調査研究を実施いたしました。

さらに、選定委員会の種目ごとの調査報告及び各学校の調査研究報告は、7 月の定例教育委員会終了後に、選定委員長より文書で報告を受けました。併せて、教科書センター訪問者の意見等についても事務局より報告を受けました。

それでは、これらのことを基に 11 種目の教科書と特別支援学級が使用する教科書の採択について、個々に審議を行います。

なお、審議の対象となる教科書は、各出版社から教育委員会用、調査研究用及び教科書展示会用として、それぞれに送付されてきたものとし、別紙、議案書の資料に示しているとおりです。

それでは種目ごとに審議いたします。

【 国語 】

○中井委員長：はじめに国語の教科用図書の採択を行います。教科書は、東京書籍・学校図書・三省堂・教育出版・光村図書出版の5社です。ご意見をいただきますようお願いいたします。

○早川教育長：まず、どの教科書も総じて印刷や紙の質が良くなっていて見映えもよく、甲乙付けがたいという感想を持っています。

その上で従来は、教科書に記載されている内容は、指導書や指導要領に準じて前から順番にすべて指導していくのが当たり前でしたが、「基礎基本の定着」「個に応じた指導の充実」などが強調されるようになり、教科書の編集にも工夫が見られるようになったと感じます。

国語の教科書の場合、光村図書の5年生、6年生用の教科書が1冊になっています。これは、大きな変化ではないでしょうか。また、三省堂の教科書が学年ごとに2分冊になっているものの、2年生以上は2冊を年間を通じて使うようになっています。

いずれも、教員が指導しやすいように配列変えをしたり年間指導計画を立て直したりしながら指導できる余地を残した工夫された教科書だと思います。

○村田委員：私も三省堂の教科書は面白いと思いました。「学びを広げる」というところを見ると、これまでの教科書作りの型にとらわれない意欲的な編集の姿勢がうかがえます。ことばに関する様々な教材を載せていて、その部分でも興味が持てます。グループ学習をするにあたって司会の仕方を学んだり、英語の授業との関連で世界のコミュニケーションを取り上げたりするような使い方が考えられると思います。

一方で報告書を見ますと、これまで使ってきた教科書になかった形式なので、学校の先生方からは「どう使えばよいのか」という不安もあがっているようです。実際に使う場面ではどうなのかということは重要な用件だと思います。

一方で、光村の高学年の教科書が1冊になっている点については、報告書には「見通しを持って学習を進め、活用することができる」と記載されています。年間を通じて柔軟な指導計画を編成することが可能ではないかと考えられます。

○中井委員長：光村図書出版と三省堂の教科書についてのご意見がありましたが、他の教科書についてはいかがでしょうか。

○平本委員：他は従来どおり、上下巻に分かれた教科書を年度の前半は上巻を後半は下巻を使う構成です。

東書の教科書は、単元のはじめに「読む」「書く」「話す・聞く」など単元のねらいを示し、その単元でどんな学習をするのかがよく分かるようになっています。1年生の教科書では他社よりも文字が大きく読みやすい印象がありますし、6年生の教科書では逆に他社よりも文字が小さくなっているように思います。

印刷に差はないと感じていますが、東書の教科書は他社に比べて、紙質が違っており、強くてより白い紙が使われているように感じました。紙が白いので文字がはっきりしていますし、図や写真の色も鮮明に感じます。

○早川教育長：生駒市は情報教育推進特区として情報活用能力の育成に力を注いできましたが、その中でも子どもたちのコミュニケーション能力といいますか「伝え合う力」の育成に取り組んできました。その事業も今年度で終了します。これまでの経験を生かして引き続き情報活用能力の育成に努めていきますが、その場となるのが主に総合的な学習の時間と国語の時間です。

東書の教科書と光村の教科書も、情報活用能力の育成につながる教材は1年生から系統的に配置されていますし、いずれも「話す」学習にはより力を入れた配列になっているように思えます。「伝え合う力の育成」を大きく掲げて情報教育に取り組んできた生駒市にふさわしいと言えます。

○中井委員長：東京書籍と光村図書出版の教科書が生駒市にはふさわしいということのようですね。どのようにさせていただきますでしょうか。

○村田委員：光村の教科書では、たとえば2年生下の教科書の「たずねましょう」というところに、「とくいなことはなんですか。」「すいえいがとくいです。」「いちばんとくいなおよぎ方はなんですか。」「せおよぎです。」というやり取りが示されています。さらに「もっと知りたいときはつぎのように・・・」と続いています。光村の教科書は全体に、このような表現に当たってのモデルを示して、児童がそれをまねて表現できるように作られています。このことは選定委員会の報告書でも「学習の手がかりになる」と書かれています。

東書と光村の教科書のどちらが良いか判断は難しいですが、先ほどの情報教育でも情報を発信する力の育成に力を注いできたわけですし、光村の教科書にするのが良いと思います。

○中井委員長：「光村図書出版の教科書のほうがふさわしい」というご意見ですが、他にございませんか。それでは、いずれも甲乙付けがたいのですが、生駒市の教育について考えた結果、国語は「光村図書出版」を採択することといたします。

【 書写 】

○中井委員長：書写の教科用図書の採択を行います。教科書は東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版、日本文教出版の6社です。ご意見をいただきますようお願いいたします。

○早川教育長：各社とも写真やイラストを多用し、特に毛筆の筆の運びなどは2色の薄墨を用いて分かりやすく示しています。また單元ごとに「めあて」を示し、振り返りのコーナーを設けて自己評価ができるようにしている点も共通しており感心しました。3年生から毛筆の学習が始まるのですが、姿勢や筆の持ち方、筆の運びなど、目で見たり手本を見たりして学んでいくものですので、写真やイラストが多用されていることは良いことだと思います。

目立った特長といえば、東書の教科書だけ横幅が若干大きくなっていますが、他の各社は同じような特徴を持っていると思います。また、教材の配列は、学年の最初は1文字から始まり、ゆとりを持って学習の年間計画がたてられるよう各社が工夫されていると感じました。余裕を持って学習できると言えます。

○平本委員：各社とも学校行事等、子どもたちの生活に生かされた題材を多く取上げていると思いました。

また、教育出版では「友情」「歴史」「世界」といった文字を取上げ、子どもたちに今、考えさせなければならない題材を選んでいると思いますし、日文は4年生で「光」「林」「すな」、5年生で「土地」「道」「太陽」、6年生で「野原」「湖」「夕やけ雲」という風に自然を題材に系統立てて取上げられており、どの教科書も学習する文字の選択に配慮されており、各社の特色が現れていると思います。

また、学習したことを実際の生活に生かすことができるような工夫も各社に見られます。横書きの硬筆教材を各社とも系統的に配置しているようですし、手紙やはがき、メモのほか、学級新聞やノート、ポスター、掲示物などを取上げて、実際の生活の中で、どんなことに気をつけて文字を書くかを学ぶことができるようになっています。

また三省堂の「生活の中の文字」、教育出版の「文字の世界」は、文字がどのように使われているのかを実際の事例を見ながら学習することができる教材で、これら2社の特徴になっていると思います。

その中で、光村の教科書は、他社と同様の手紙やメモのほか、七夕の短冊、カルタ、メッセージカード、学校行事のプログラム、寄せ書き、色紙などが取り上げられています。児童が文字を書くことを楽しみながら、文字の配置の仕方、伝えやすい表現の仕方を学ぶことができる教材だと思います。

○村田委員：各社とも巻末にその学年で学習する漢字の一覧を挙げていますが、光村と日文の教科書ではすべての漢字の書き順を示しています。正しい文字の形を書くためには、筆順を正しく身に着けることが非常に大事だと思うのですが、特に小学生の時期に身に着けることは重要なことだと思います。

○中井委員長：平本委員から光村の教科書についてご意見をいただきましたが、村田委

員も光村の教科書がよいというご意見でした。早川委員、ご意見はございますか。

○早川教育長：初めに申し上げたように各社とも甲乙付けがたいのですが、私もお二人の意見と同じようなことは感じています。また、どの教科書でも指でなぞる、あるいは鉛筆でなぞるという活動を通して、文字を書くことに慣れていけるような工夫がされています。また文字を書くときの正しい姿勢も最初に身につくように各社とも工夫しています。

今、意見が出ている光村に関して言えば、鉛筆の持ち方も大きく取り上げていますし、鉛筆を持った状態で手を教科書の指定の場所に置くと、正しい持ち方の絵と自分の手を見比べることができるようになっていきます。そういう点でも、工夫されていると思います。この時期に学んだ基本的な姿勢は、大人になってもベースとなるものですし、写真やイラストを使って、繰り返し基本的な姿勢や筆の運び、字の形、筆順を教えていくことは大切なことだと思います。

選定委員の意見や私の現場での経験を踏まえても、私も光村でよいと思います。

○村田委員：私も光村の教科書がよいといったのですが、先ほどの国語の教科書も光村ということで、選定委員長に伺いたいのですが、国語の教科書と書写の教科書が同じ発行者になるということについてはどうなのでしょう。利点とか欠点とかあるものでしょうか。

○中森選定委員長：書写で習っていない漢字を書くというようなことが起こると、やはり指導に余計に時間をかけなければならなくなると思います。学年で指導する漢字は決まっていますが、指導する時期は発行者によって異なりますから、書写と国語の発行者が同じというのは無難であろうかと思えます。

○中井委員長：国語と書写の両方が光村図書になってもかまわないということですね。それでは書写は「光村図書」を採択することといたします。

【 社会 】

○中井委員長：社会の教科用図書の採択を行います。教科書の発行者は東京書籍、教育出版、光村図書出版、日本文教出版の4社ですが、日本文教出版がA B判とB 5判の2種類の教科書を発行していますから全部で5種類になります。ご意見をお願いします。

○平本委員：私は、子どもたちが今まであまり意識せずに暮らしてきたこの現代社会のしくみを、どのように表しているのかという点に注目しました。

どの教科書も様々な工夫をしていますが、中でも東書は、調査研究部会の報告にもあ

るように、身近なことから少しずつ学習対象が広がるような構成をとっていると思います。埼玉県東松山市の実際の子育て支援の制度を詳しく紹介しながら、地方自治と国の政治のしくみについて学習できるようにしていますし、大阪府堺市の公園整備を例として取り上げ、市が進めている政策や仕事は、すべて日本国憲法の考えに基づいていることを分かりやすく説明していると思いました。

○村田委員：私は日文のA B判の方の教科書に注目しました。現代社会のしくみのところで、実在の高齢者の話をもとに高齢者のくらしを例として、高齢者福祉の問題を地方自治と国の政治のしくみに関連させて説明しているところが分かりやすいと思います。子どもたちがインタビューに訪れる老人福祉センターも奈良県内の施設を取り上げていて、子どもたちが身近に感じることができると思います。さらに生駒市ではどうなのかという「問い」が生まれてくることにもなると思います。

○中井委員長：今のところ、東京書籍と日本文教出版のA B判の方の教科書のどちらかということのようですが、他にご意見はございませんか。それでは東京書籍と日本文教出版のA B版を中心にご意見をお願いします。

○村田委員：先ほどの意見に追加になるのですが、日文のA B判の教科書は3、4年生の下巻の「命とくらしをささえる水」の単元でも奈良市の上水道を取り上げており、水資源を通して生駒市の人々の暮らしとのつながりも学習できるようになっているのでよいと思います。

東書の場合は福岡県久留米市が取り上げられています。

○早川教育長：社会科は興味関心をいかに高めていくかが大切ですし、自主的に調べ学習に取り組むように発展させていく教科です。

村田委員がおっしゃったような観点から言うと、日文のA B版は5年生の「日本の工業」で三重県鈴鹿市、「国土の環境を守る」で琵琶湖、6年生の「古墳」で近畿地方を取り上げており、関西に住む生駒市の子どもたちが興味関心を持ちやすく、学習効果も上がると思います。「わたしたちの県」で東書が兵庫県を取り上げ、日文A B版が岡山県を取り上げているという事例もありますが、実際には「私たちの奈良県」という副読本を補助教材として使いますから、問題はないといってよいと思います。

先ほども言いましたが、子どもたちに意欲関心を持たせるため、より身近な題材が教材として配列されていることはある意味で必要かと思しますので、そういう意味では日文のA B版は大変興味を引きました。

○平本委員：東書と日文A B判の両者とも典型的な地域を例にあげながら、豊富な資料、

写真、イラスト等を配置して見やすい構成になっていると思います。ただ、東書は、本文中に子どもたちの感想を記述している部分があり、その表現が疑問の形で終わってしまっていることが多いように感じました。子どもたちの疑問から学習を深めさせようと思図しているのだとは思いますが。日文も子どもたちの疑問から学習を深めていくという点で同様の構成をとっていますが、その後の結論部分の記述が詳しくされています。

また、章末にある「大きくジャンプ」のところでは、多様な教材が多く取り上げられていて、学習で身に付けた知識や技能を活用しながら探究できる構成になっているところがよいと思います。

○中井委員長：私も非常に興味を持って社会の教科書を見せていただきましたが、委員の皆様と同じく、日文のA B判の教科書が地域性から言ってふさわしく、また子どもたちの疑問を大切にしながら、説明部分の記述も丁寧になされていると思います。

なお、日本文教出版からは、2種類の教科用図書が発行されていますから、念のために確認いたしますが、A B判のほうの教科書、教科書の記号番号でいいますと、社会 307 と 308, 507, 508, 607, 608 ということで決定してよろしいでしょうか。

それでは、社会は日本文教出版A B版を採択します。

【 地図 】

○中井委員長：社会科地図の教科用図書の採択を行います。地図は東京書籍と帝国書院の2社です。ご意見をお願いします。

○村田委員：実際に地図を見てみますと、帝国書院の地図の方が色分けが鮮明で分かりやすいと感じました。世界の地図では、南と北でアメリカ大陸を分割することなく、見開きで大きく掲載していたり、アメリカ合衆国やヨーロッパを地形による色分けとは別に、国や地域、州別に色分けして掲載したりするなど、見やすくて分かりやすい構成だと思います。

○平本委員：今、村田委員のおっしゃった帝国書院の見開きページは教科書を縦にして見ることになっているページが多いのですが、東書の地図は見開きページでもそのまま横にして見るようになっていきますから使いやすいと思います。ただその分、地図が少しコンパクトになりすぎている感じもします。

○早川教育長：東書は導入部分の「地図のなぞとき」で地図の使い方をていねいに説明していますが、初めて本格的な地図に出会う子どもたちには、たいへんわかりやすい構成になっています。

一方、帝国書院は、「地図のやくそくごと」、「地図帳の使い方」でより多くのページを

割いています。調べ学習等で地図を利用しますので、大切な項目は押さえていると思います。

また先ほどの社会科でも話が出たように、教材では地域性は大切だと思います。東書が例として取り上げている地域が東京であるのに対し、帝国書院は大阪府の地図を例にあげながら解説していますので、そういう意味では帝国書院の方が子どもたちには身近に感じられるのではないのでしょうか。

○平本委員：東書の地図は、「調べてみよう」、「〇〇県で発見」などの問いかけをキャラクターのセリフとして示し、地図帳を活用する上で子どもたちが主体的に学習していく工夫がされていると思います。帝国書院は地図上にキャラクターが登場し同じような問いかけをしていますが、問いかけの方法が今時の感じがして、非常に興味を引くと思います。

その反面、東書のキャラクターはあまり目立ちませんが、問いかけの量や種類は帝国書院より充実していると思います。

○村田委員：地図と同様に社会科の学習を深めていくためには、資料や図の充実も欠かせないと思います。

帝国書院は、「自然の様子」、「産業の様子」、「日本の歴史」を同縮尺の地図を配置しながら提示していて、一つ一つの資料性と他の分野との関連性をうまく表していると思います。巻末の統計資料も日本、世界ともに充実しています。簡潔に分かりやすくという点では、東書もうまく編集していると思いますが、資料性という点では帝国書院の方がよいのではないかと思います。

○中井委員長：委員の皆様からは、帝国書院を推す意見が多かったようですので、地図は「帝国書院」を採択することとします。

【 算数 】

○中井委員長：算数の教科用図書の採択を行います。教科書は東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、新興出版社啓林館、日本文教出版の6社です。ご意見をお願いします。

○平本委員：大きさと印象という点で目を引いたのが、日文と啓林館です。

日文は他の教科書と比較すると3センチ、見開きにすると6センチほど大きく、中身も非常にきれいですし、特に低学年の子どもたちには、興味付けや学習意欲をかき立てるという意味でよい印象を受けました。ただ、大きいということで重いなどの問題はあられるのかもしれない。

次に啓林館ですが、開くと見開きが3ページ分となるように折込みになっているページがあり、工夫されていると思いました。また、パステルカラーのような淡い色を使っているのですが、特殊な印刷技術を使っており、視覚障害者にも見やすいものになっているとのことで感心しました。

次に中身ですが、基礎基本の確実な定着のために、単元末に練習問題を掲載したり、単元と単元の間学習した内容を振り返るコーナーを設けていたり、巻末に発展的な問題をまとめて掲載したりしている点は各社とも共通しており、基礎基本の定着のための配慮がされておりよいと思います。また、つまずいたときに戻って復習するページを示している点も共通しています。これは児童が自主的に学習を進め、力をつけていくことができるように配慮されているものと思います。

その中で東書の教科書では、学習中に取り組む練習問題に先ほどの復習ページの表示とは逆に関連する発展的な問題のページも表示しています。巻末にまとめられていれば1冊の教科書の学習を終えた上で取り組むような印象がありますが、このように学習の中でページが表示されていれば、学習の中でも余裕のある児童は発展的な学習に取り組むことができるのではないのでしょうか。この点も、工夫されていると感じました。

○中井委員長：選定委員長に伺いますが、発展的な学習というのは大きな単元の学習を終えた上で取り組むものなのではないのでしょうか。それとも学習の中で取り組んでいってもよいものなのでしょうか。

○中森選定委員長：まず基本的な学習内容を学んだ上で余裕があれば取り組むというのが発展的な学習ですけれども、算数のような教科では習熟度別の指導をしている場合には、大きな学習単元を終えた後で取り組む場合があると思いますし、日常行われている通常の学級集団での指導の場合には、学習の過程で取り上げたほうが効果的な場合が多いと考えます。

○中井委員長：東書の教科書が学習中に取り組む練習問題に関連する発展的な問題のページを示しているのは、学習効果を高めることに役立つということです。他にご意見はございますか。

○村田委員：教科書の巻末に、切り取って学習に使う図形などの教材がついている場合が多いです。算数の学習は具体物を使いながら学習すると効果的ですから、このような工夫をしているのだと思います。発行者によって付いている教材の数も違いますが、たとえば角の学習をする教科書には分度器がついているものがあります。東書と日文の教科書には、文房具の分度器と同じものが付いていて、紐をたらして坂などの傾きを調べる教材として使ったりするそうです。啓林館と学校図書の教科書にも同じ目的で使う教

材がついていますが、児童が喜びそうな絵が描いてあって文房具の分度器とは違っています。本物の分度器を使って学習をするにあたって、分度器と同じ教材を使って導入していくことがよいのではないのでしょうか。

○早川教育長：ノートの活用の仕方を指導するページを設けている点も各社共通しています。東書の「マイノートを作ろう」と大日本の「ノートの達人になろう」は児童の手書き文字のイメージで書かれていて、児童にとっての良い見本になるように作られています。算数ではあまりノートの使い方について気にかけることが無いかもしれませんが、現場の先生方にとってもこのような具体的な指導例が示されていれば指導がしやすいと思います。

○中井委員長：東書の教科書がよいというご意見が多いですね。それでは算数は東書の教科書を採択することにします。

【 理科 】

○中井委員長：理科の教科用図書の採択を行います。教科書は東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、信濃教育会出版部、新興出版社、啓林館の6社です。ご意見をいただきますようお願いいたします。

○早川教育長：理科の教科書なので、実験や観察をどのように取り上げ扱っていくのかという点に注目してみました。

各社の教科書とも、まず実験の前に課題を示し、それに対してキャラクターがいろいろな考えを示し、自分はどの考えが正しいと思うか考えさせたり、友だちと話し合わせたりして仮説をたてて、その仮説を明らかにさせるように努めています。また、その実験の方法もどうすればよいと思うか問いかけたり、話し合わせたり、実験の結果を考察するというような流れになっており、この流れはどの教科書も同じだったと思います。

どの教科書がよいか決めることは難しいのですが、考察の仕方が、大日本と啓林館の教科書は「考察」として、東書は「まとめ」、教育出版は「わかった」として結論を教科書に明記しています。ただ学校図書の教科書は結論の前に「考察」として結論を導き出すための質問を並べていて、特色かと思います。また、教育出版の教科書も「結果から考えよう」という欄を設けて、児童が実験の結果から自ら結論を導き出せるように支援しています。

○村田委員：東書や啓林館の教科書でもキャラクターが結論を考えるためのヒントを示して、児童が自ら結論を導き出すための支援をしていました。確か、啓林館の教科書にも「考察しよう」という欄があって、学校図書の教科書と同様に結論を導き出すための

質問が並んでいたり、この場面にも「話し合い」のコーナーを設けて、児童が相互に意見交換しながら結論を導き出せるようにしたりしている実験もありました。

○早川教育長：啓林館の教科書には〔実験〕〔結果〕〔考察〕が明記されていて、〔疑問〕〔仮説〕〔実験〕〔結果〕〔考察〕という流れがはっきりしています。どの教科書もこの流れは同じですし大切ですが、啓林館のように学習の流れがより明確に示されている方が子どもたちにもわかり易いですし、指導者にとっても授業が組み立てる上でやりやすいと思います。

○平本委員：教科書の巻末資料にも各社とも、さまざまな工夫が見られます。教育出版の教科書は発展的な学習を巻末にまとめています。学校図書と東書の教科書では話し合いの仕方や実験器具の使い方をまとめています。啓林館の教科書は生き物資料集・天体資料集・地域資料集になっています。発展的な学習と実験器具の使い方は他社は教科書の必要などところに分けて記載しています。巻末資料としては啓林館の資料集が最も充実していると思います。

○中井委員長：これまでのご意見では、新興出版社啓林館の教科書がよいということになっているように思いますが、大日本図書の教科書だけが上下巻に分かれていて、他社が学年1冊になっている点については、どうなのでしょう。選定委員長いかがですか。

○中森選定委員長：教科書をご覧いただいておりますが、生物や気象・天体を取り扱った単元の学習は、年間を通じてその時期でないとできない学習がたくさんあります。そのときの気象条件等によっては、計画通りに授業を進められないこともありますから、年間の指導計画はある程度、柔軟性を持ったものにしなければなりません。年間で1冊にしている発行者は、その点に配慮しているものと考えています。

○中井委員長：年間で1冊にしている新興出版社啓林館の教科書でよいということですね。それでは理科は新興出版社啓林館の教科書を採択することといたします。

【 生活 】

○中井委員長：生活科の教科用図書の採択を行います。発行者は東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、信濃教育会出版部、光村図書出版、新興出版社啓林館、日本文教出版の8社です。ご意見をお願いします。

○平本委員：各社とも他の教科の教科書よりやや大きいサイズになっているので、児童にとって見やすいと思います。また、ほとんどの教科書の巻末に資料集が付いています

が、啓林館は別冊で付いているので、観察などの活動には携帯しやすいかもしれません。
ただ学習するのは低学年の子どもたちなので、落としたり無くしたりしないか、心配な面があります。また、活字が小さいのではないかと思います。

○村田委員：大日本や光村の教科書は、大きく独特な絵や写真で内容を訴えていて、雑誌を思わせるような紙面で、個性的で一見教科書らしくない印象を受けました。受け取り方はいろいろあると思いますけれども、子どもたちがどのように受け取るかが気になるところです。また、学校図書は上下巻とも巻末に安全のページを付けているのが特徴です。

○早川教育長：日文は、活動例が具体的で、数も多く載せられていて、子どもたちに良い事例を与えられるようになってきていると思います。また、教育出版は巻末に色を塗ったり、書き込んだりするワークシートが付いていて、子どもたちに興味や意欲を持たせる工夫がされていると思います。

東書は、單元ごとに「やってみよう」のページがあり、自主的に児童が自分の関心に応じて活動できるように導く形で、うまく構成されていると思います。

○中井委員長：学校図書、日本文教出版、教育出版、東京書籍の教科書が良かったというご意見だったように思います。この4社について何かご意見はございますか。

○平本委員：東書は、内容・程度とも適切に配置されていて、指導の流れが詳しく示されているのがよいと思います。特に、児童の実態に応じて活動内容を選択できるような構成になっているところが評価できます。

教育出版は単元の最後に「ハートをつなごう」というコラムがあり、家庭や地域とのつながりを非常に重視した内容で記載されています。

日文は体験したことをカードなどで整理し、まとめて振り返る活動が学年末にあるのがよいと思います。

○早川教育長：特に違いがあるとすれば、東書がたくさんの活動内容や活動例を示して、実態に合わせて選択できるようにしている点だと思います。また、「もっとしらべよう」のコーナーを設けて、子どもたちがさらに発展的に自主的にいろいろな問題や場面に取組んでいく意欲をかきたてながら、さらに調べるという「調べ学習」につなげていくような工夫がされています。国語でも申し上げましたように、本市では「伝え合う力」の育成を重視しておりますので、電話、ファックス、インターネットなどを活用し、調べ学習を進めながら「伝え合う力」の育成に取り組んでいくことを考えると、他社に比べれば、東書の教科書が生駒市にふさわしい教科書だと思います。

○中井委員長：それでは、生活科の教科用図書は「東京書籍」を採択するということで決定します。

【 音楽 】

○中井委員長：それでは、続きまして「音楽」についてご意見を伺います。教科書は東京書籍、教育出版、教育芸術社の3社です。

○早川教育長：音楽というのは、学習指導要領の中でも特に子どもたちの情操面を伸ばし、豊かな心を育成することに大きな影響がある教科だと思います。

和楽器の他、雅楽や民謡など日本の伝統的な音楽が多数取り上げられていますし、アリランやラテン音楽、ジャズなど世界の伝統的な音楽も多数取り上げられている点が、今までの教科書と違うと感じたのですが、これからグローバルな教育をしていくということで教科書会社も考えてきたのだらうと思います。

一方で「なだそうそう」や「さんぽ」など、子どもたちが親しみやすい音楽もたくさん取り入れられています。最近の傾向としては、教科書を使わずに何かの歌集や楽譜を教材として使うケースも多いのですが、教科書を中心に授業を進めるとなると、このように幅の広いグローバルな、また日本の伝統的な音楽も大切にしたい教材が大切だらうと思います。

長く歌われてきた日本の歌は、東書では「日本の歌、心の歌」、教育芸術社は「こころのうた」、教育出版は「にっぽんのうた、みんなのうた」として掲載しています。そういう意味では私の思いと、一致していると思います。

また、教育芸術社の「こころのうた」も教育出版の「にっぽんのうた、みんなのうた」も、その歌の背景について詳しい説明が記載されていますが、そのうたがどのようにして生まれてきたのか、その時代の背景や作者の心情も大切ですので、指導者はそういったことも子どもたちに感じさせながら授業を進めていかねばなりません。そういう観点からは、教育出版の「こころのうた」は写真が鮮明で印象が強いものになっています。

○村田委員：教育出版は4年生以上の教科書の巻頭に歌手・指揮者・演奏家が音楽について小学生に伝えたいことを語る文章を載せ、人生をかけて音楽に取り組んできた経験を伝えるようにしています。

また教育芸術社は、3年生以上の巻末に「ステップアップ」と題して、アナウンサー・野球選手・声優・俳優が自らの音楽体験を語る文章を載せ、人間の成長と音楽との関わりを考えさせるようにしています。先ほど早川委員からも話がありましたが、音楽は子どもの情操教育、豊かな心の育成に大きな役割を果たすものですので、音楽を聞いて子どもたちがどんなことを感じるのかはさまざまですけれども、このような人たちの話に

触れることが、その感性のベースを作っていくと思います。

○中井委員長：教育出版と教育芸術社の教科書が良いというご意見ですね。

○早川教育長：東書は「音楽の森」、教育出版は「音楽ランド」、教育芸術社は「みんなで楽しく」という名前で発展的な学習教材として、合奏曲や合唱曲がたくさん掲載されています。学校では音楽会などの発表会で取り組むことができると思いますので、そういう意味では3社ともよいと思いますが、3社の中では教育出版と教育芸術社の曲数が多く、子どもたちが様々な曲に接することができます。東書と教育出版はその中に集会などで使える全校合唱用の曲を載せています。

一方教育芸術社は、3年生以上の教科書のはじめのほうに学年の歌というのがあって、はじめに学習し、年間を通してのテーマ曲のように歌えるようになっているのが良いと思います。

○平本委員：先ほど村田委員の話に、「感性を育てる」「音楽に携わってきた人たちの話に子どもたちが触れることができ、豊かな情操を養うことができる」というご意見がありましたけれども、私は教育芸術社の3年生以上の教科書の巻頭にも「音楽プリズム」というページがあって、音楽の持つ力を実感させるような指導ができるようになっているところが同じような意味でよい工夫だと思います。子どもたちに対して、こんな風に育ててほしいという思いがすごく表れているように感じます。

○中井委員長：教育芸術社の教科書が良いというご意見が多いようですね。それでは音楽は教育芸術社の教科書を採択することといたします。

【 図工 】

○中井委員長：図画工作の教科用図書の採択を行います。教科書は東京書籍、開隆堂出版、日本文教出版の3社です。ご意見をいただきますようお願いいたします。

○村田委員：一目見ただけで、三者三様です。東書の教科書は2学年で1冊を使うようになっています。他は1学年で1冊の構成になっています。また東書と開隆堂の教科書はサイズが同じですが、日文の教科書は、横幅は他の2社と同じですが縦がずいぶん大きく最も大きなサイズになっています。選定委員会報告書に日文の教科書に児童作品が最も多く掲載されていると記載されているのも、サイズの大きさによるものだと思います。

○平本委員：図画工作では、まず子どもにこんなものを作りたいという気持ちを持たせ

ることが大切です。各社とも1ページのほとんどを使って、あるいは見開き2ページでこれから作る作品を紹介していることは、子どもたちへの意欲付けという点で大切なことだと思います。

編集趣意書によると開隆堂の教科書は「児童の活動中の姿をできる限り紙面に掲載しました。生き生きした活動の姿が、自分もやってみたい、という児童の学習への意欲や関心を高めます」と書いています。

ただ実際に見てみますと、日文の教科書も児童が活動している姿が多数掲載されていますし、非常に効果的な掲載の仕方をとっていると思います。

○早川教育長：選定委員会の報告には、日文の教科書が「児童が作品例を見て、作りたくなるような作品が掲載されている。親近感をもてるような作品が多くあり、自分にも作れそうという気持ちにさせる」と書かれています。どの発行者の教科書も子どもが意欲を持って取り組める作品づくりを題材にしていると思うのですが、調査に当たっていただいた現場の先生方のご意見が集約されて報告書に出ていると思いますので、日文の教科書の中に、子どもたちにとって親しみやすい題材がもっとも多いと感じているのだと思います。

○中井委員長：東書の教科書についてはご意見ございませんか。

○平本委員：2学年で1冊の教科書を使うというのは、学習指導要領の目標や内容が2学年単位で示されていることに対応しているのだと思います。2学年分を見通して、計画を柔軟に立てることができるなど、メリットは大きいと思います。

ただ、最初にも申し上げましたように、子どもにこんなものを作りたいという気持ちをまず持たせることが、私は最も大切だと思います。開隆堂か日文の教科書がよいのではないのでしょうか。

○村田委員：みんなが共同で作った作品を見るとたいへん楽しそうに見えます。そんな楽しい活動ほど、あとで冷静に振り返ってみることが大切になると思います。開隆堂の教科書は各ページの下に、日文の教科書は単元の終わりのページの右下に「ふりかえり」が載っていて、児童がその単元での自分の学習活動について考えることができるようになっています。

同時に楽しそうな作品作りの写真を見ると、その後どうやって片付けたのかなと心配もしてしまうのですが、日文の教科書にはさらに「かたづけ」が「ふりかえり」とともに掲載されているのがとてもよいと思います。

○中井委員長：他に意見はございませんか。委員の皆様のご意見を伺っていますと、日

本文教出版を採択する意見が多かったようですので、図画工作は「日本文教出版」を採択してよろしいですか。

【 家庭 】

○中井委員長：家庭科の教科用図書の採択を行います。教科書は東京書籍と開隆堂出版の2社です。ご意見をお願いします。

○早川教育長：家庭科は、特に実習を大切にする教科です。調理実習や裁縫など生活の基礎を学習するわけですが、最近子どもが実際に家庭生活の中でこのような体験をする機会は不足しているように思います。針やアイロン、包丁などを十分使い慣れていない子どもが多いのではないのでしょうか。そういう中で、実際に授業の中で指導者が一番気を遣うのが安全面です。怪我や調理実習では衛生面も気をつけなければなりません。

両方の教科書とも、安全面・衛生面に工夫をしていますが、開隆堂の表記の方が分かりやすく、その他の注意点も簡潔に分かりやすくまとめてあり、子どもたちも理解しやすいのではないかと思います。

○平本委員：両方の教科書とも横幅が広いと思うのですが、実習等に影響はないのでしょうか。選定委員長どうでしょうか。

○中森選定委員長：家庭科の学習は、教室で行う時もありますが、多くは家庭科室で学習しますし、特に実習中は、机の上の教科書やノートを片づけてスペースを作って実習を行います。途中で子どもたちが、教科書を広げて確かめる時等は、教科書が小さい方が良いと思いますが、2社に差はなく、この程度であればほとんど影響が無いと思います。

○村田委員：開隆堂の方は見てわかる、東書の方は読むとよくわかるという印象を受けました。東書は文字間が小さいところが少し気にかかりますが、中学校で習うような内容が少し取り入れられており、非常に興味をひくところがあります。例えば、プリペイドカードを取上げていたり照度計を使って実験したりするところです。また環境問題は、両社とも取上げられており、特に開隆堂の方がいろんな分野で関連させて各所に取り入れられているような気がしました。メディアでよく見かけるサーモグラフィーの画像も載っており、子どもにとってはわかりやすく身近に感じやすいと思います。

また、紙面ですが東書はきれいにコマに区切ってあり、きっちりと流れていく感じで、開隆堂の方はやや雑誌的な感じで斜めに写真や図が載っているページがあり楽しい紙面になっています。どちらがいいかは、受け手によると思います。

裁縫のページは東書と開隆堂で割いているページ数が違うのですが、やはりページ数

は多いほうがよく分かります。

また、巻末の食品分類表を比較しますと、開隆堂の方が見開きで例示も多く、食品の種類の欄が一つ多いので、よく分かるのではないかと思いました。食育の重要性や青少年の過度なダイエットが指摘されているときですし、見やすい教材を使って、食に対する教育をしっかりとしていかなければならないと思います。

それぞれ良いところがあると思います。

○中井委員長：他に意見はございませんか。委員の皆様のご意見を伺っていると、開隆堂を採択する意見が多かったようです。家庭科は「開隆堂」を採択してよろしいですね。

【 保健 】

○中井委員長：保健の教科用図書の採択を行います。教科書は東京書籍、大日本図書、文教社、光文書院、学研教育みらいの5社です。ご意見をお願いします。

○早川教育長：各社とも、教科書に書込み欄等を設け、課題に対する自分の考えを記入しながら学習できるように工夫されています。学習の目標、ねらい、学習の経過、まとめ等を友達の見解も聞きながら自分自身でチェックして進めることは大切だと思います。各社とも取り入れていたことですが、書き込み作業をしながら進めていく、その作業を教科書に取り込んだというのは良い工夫だと思います。

多いのは単元の最後に学習したことをまとめるというものですが、単元のはじめに示された課題について、自分の生活を振り返って記入するというものも多かったと思います。

その中でなるほどと感じたのは、東書の「学習を振り返ろう」です。東書は大きな単元ごとに1ページを使って「学習を振り返ろう」を設け、児童が自分自身でチェックし、書込む、学びあう、そして取込むという学習形態ができて学習を定着させる工夫が図られていると思いました。

○村田委員：私は光文の書込み欄も特徴的だと思いました。例えば「けがの防止」という単元で、階段近くで遊んでいる児童の絵を示して「行動」「心や体の状態」「環境」に目を向けて考えたことを記入するようになっています。「アルコールの害」の学習では、「人から酒やタバコを誘われたらどう断るか書いてみましょう。」と示してあります。課題が具体的で、児童にとって自分がその場でどう行動すればよいのかを具体的に考えることができるようになっています。

○平本委員：問いかけが具体的という点では「タバコの害」「酒の害」「薬物の害」の各

単元にも「1杯くらいなら大丈夫だよ」という具体的な誘い文句を示して断り方を記入させる文教社の教科書も、児童への指導の効果が高いと思います。

ただ光文の教科書には全体を通じてそのような具体性が見られます。特に「犯罪被害の防止」の単元ではさまざまな状況や不審者の行動を示しながら、自分ならどう行動するのかを考えさせるようにしているのが良いと思います。

○中井委員長：今の村田委員、平本委員のご意見は光文書院の教科書がよいというご意見ですね。

さきほど早川委員がおっしゃった東京書籍の「学習を振り返ろう」の前には、「広げよう」という発展的な学習のページが、見開き2ページで大きな単元の終わりにあります。

一方、光文書院、学研教育みらい、文教社の教科書では大きな単元ごとにまとめず、学習の中に少しずつ発展学習が盛り込まれています。選定委員長には先ほど算数の教科書採択の中でも伺いましたが、発展的な学習は、必ずしも大きな学習単元を終えた後にまとめて取り組むとは限らないということでしたけれども、それは算数以外の教科でも同じでしょうか。

○中森選定委員長：どの教科においても、大きな学習単元を終えた後で取り組むとは限りませんので、学習の過程で取り上げたほうが効果的な場合もあると考えます。

○中井委員長：発展的な学習を大きな単元の後にとまとめているわけではない光文の教科書でも良いという風に理解させていただきます。他に意見はございませんか。それでは、保健は「光文書院」を採択いたします。

【 特別支援学級使用教科書 】

○中井委員長：以上をもちまして、11種目の教科用図書の採択が終了しましたが、最後に特別支援学級で使用する教科書が残っております。選定委員長から調査研究について説明を受けます。

○中森選定委員長：ただいまご審議いただいた検定済み教科書を使うことは、学校教育法第34条第1項に規定されておりますが、同法附則第9条で、特別支援学級等においては、この教科書以外の教科書を使うことができるとしております。これに基づきまして、特別支援学級の児童が使用する教科書について調査研究を行ってまいりました。

特別支援学級で使用する教科書は、知的障害者用の国語及び音楽のみが教科書展示用として見本本が送付され、算数については平成22年3月30日付けで文部科学省初等中等教育局特別支援教育課から作成途中である旨の連絡があり、その後「教科書改訂の基本的な方針」及び「各教科書改訂の概要」が示されました。なお、教科書見本本は送付

されておりません。

改訂の概要はさんすう☆が「具体的な活動を示せるように挿絵を変更するとともに、学校生活における活動の流れを考慮し、登校から下校までの順序で教科書の内容を並び替え、再構成した。」

さんすう☆☆（１）（２）が「児童が興味を持ちやすくするため、前半は児童が好む動物などの挿絵を多く用い、後半は実際的な日常の場面の挿絵を取り入れるなど、内容を再構成した。」

さんすう☆☆☆が「現行教科書における題材名を工夫し、指導内容を明確にするとともに、基本図形に対する理解を促すための内容を増やすなど、全体の量を調整した。」と示されています。また文部科学省著作教科書以外の一般図書として示されている絵本等は選定委員の代表が教科書センターを訪問し、見本本を見てまいりました。

以上を考慮し、第一に、奈良県教育委員会の「平成２３年度使用小学校教科用図書小中学校特別支援学級及び特別支援学校（小・中学部）教科用図書採択基準」において、小中学校特別支援学級及び特別支援学校（小・中学部）において使用する検定教科書の採択については、当該採択地区で採択されている検定教科書と同一のものを採択することが示されていること。

第二に、児童は特別支援学級担任の個別指導を受けながら、時には交流学級で授業を受けることもあり、他の児童と一緒に学習する場合には、生駒市が採択しました各種目の教科書を使うことが必要であると考えていること。

さらに、児童や保護者には、交流学級の生徒と同じ教科書を使いたいという思いや願いもあること。

以上のことから、特別支援学級の児童も、在籍する当該学年の種目ごとに採択された教科書を使用し、児童の実態等に応じて、下学年の採択教科書を使用したり、附則第９条に規定されています有益適切な教材を補助教材として使用したりすることが望ましいと考えます。以上でございます。

○中井委員長：ありがとうございます。先程採択いたしました教科書を、特別支援学級においても使用することが望ましいというご意見でございます。

それでは委員の皆様にお諮りいたします。特別支援学級で使用する教科書につきましては、ただいま、中森選定委員長から説明を受けたとおり、児童が在籍する当該学年の種目ごとに採択された教科書を使用することに、ご異議ございませんか。

〈 異議なし 〉

○中井委員長：ご異議なしと認めます。特別支援学級においても、当該学年の種目ごとに採択された教科書を使用することとします。

以上をもちまして、11種目の教科書と特別支援学級が使用する教科書の採択についての審議を終了いたします。

選定委員長はじめ選定委員の皆様、調査部会の先生方には、長期にわたり研究を重ね、資料及び報告書を作成していただきました。また担当部署においては、教科書センターを開設し、広く市民のご意見と教科書採択に必要な情報を収集していただきました。この場をお借りして、感謝を申し上げます。

しかしながら、私が申し上げるまでもなく、採択した教科書がどのような教科書であれ、子どもたちにとっての最大の教育環境は現場の先生方でございます。子どもたちが健やかに育つためには、現場の先生方の熱意と努力と研究にお任せするしかないのが現状です。現場の先生方にはどうかよろしく申し上げますとお伝えいただき、子どもたちの学習に、本日採択いたしました教科書を生かされますようお願い申し上げます。

それではこれにて本日の会議を閉会いたします。皆様、長時間にわたる慎重なご審議、ありがとうございました。

~~~~~

午後3時50分 閉会